

Jリーグクラブが行う成人向けのサッカースクール参加者の行動と態度の変化
—若年層の女性参加者に着目して—

A study of the participants attending football school for adults
conducted by Japanese professional football club.

-focused on young women-

1K08B509-1

山本崇史

指導教員 主査 松岡宏高先生

副査 原田宗彦先生

【目的】

近年、Jリーグを始めとする様々なスポーツ組織や事業体が入り込んでいる地域密着型経営は、Jリーグの活動方針、理念、規約を起源としている。Jリーグ規約第21条第2項には「Jリーグクラブはホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブ作り(社会貢献活動を含む)を行い、サッカーをはじめとするスポーツの振興に努めなければならない。」と記されている。しかしながらホームタウン活動が実際に地域や地域住民にもたらす影響についての研究は不十分である。そこで本研究は、Jリーグクラブがホームタウン活動の一貫として行っているサッカースクールの参加者が、スクールでの活動を通してスポーツ実施への関与およびクラブに対する態度をどのように変化させてきたのかを明らかにし、Jリーグクラブのスクール事業が抱える課題について検討することを試みた。

【方法】

Jリーグクラブの横浜F・マリノスが行う女性専用のサッカースクール、ミセス日産の参加者を対象に、11月17日に行われた同スクールにて、サッカー観戦への関心、サッカー実施への関心、日常の運動実施率などが最も低く、サッカー教室参加による同項目の変化が最も見られそうな若い女性5人を対象に、インタビュー調査を用いた質的調査を行った。なお、調査場所はマリノスの本拠地であるマリノスタウンであった。主な質問項目は、ミセス日産以前のサッカー経験、運動実施頻度、健康への意識、サッカー観戦及び実施への興味、マリノスへの興味、関心、愛着、消費行動、などの態度、マリノスの地域貢献に対する評価と、ミセス日産参加後の同項目の変化であり、インタビューを通してそれぞれについて詳しく追求した。

【結果】

対象者の多くが、他の民間のサッカースクールと比べ

てミセス日産の練習環境(マリノスタウン)と指導者の質(マリノスのスタッフ)を高く評価していた。優れた環境と指導者の提供はJリーグクラブでしかできないため、Jリーグクラブが行うサッカースクールの存在の重要性が明らかになった。次に運動実施率と健康への意識の変化については、毎週ミセス日産に参加しているために当然の如く変化が表れた。加えて、ミセス日産以外の運動実施や健康への意識にも変化が表れた。例えば、「サッカーを始めたことによりランニングにも興味を持ちフルマラソンにまで参加するようになった」、「年齢を重ね体の衰えを感じ始め、プレイの質を保つために健康に気を遣うようになった」などの回答が得られた。最後にマリノスへの態度の変化については、マリノスへの好感度が上がった人は5人中4人がいるが、実際に消費行動に変化が起きた人は僅か1人であった。なお、5人中1名は元々のファンであった。

【考察】

Jリーグの理念の実現は、結果で示した通り参加者のクラブに対する好感度は上がったものの、「ファンでない人にはあまり関係ないのでは」、「マリノスに愛着は湧いたが観戦はきっかけがないといかない」という回答からもわかるように、消費行動に直結するケースは稀であると推測出来る。地域住民の運動実施率や健康への意識を高めていくためには、スクールに長期的かつ継続的に参加することが健康への意識をより高めると考えられ、単発的なサッカースクールよりも会員制のスクールを定期的に行うことが重要であることが明らかになった。最後にJリーグクラブが行うサッカースクールの課題について、地域住民の間での認知度が低いことに加えて、インターネット上の広報に力を入れていないこと、またサッカーに興味はありながらサッカーに精通していない層をより取り込むためには、初心者カテゴリーや女性カテゴリーを設けるべきだと考えられる。